

「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律」(平成11年法律第117号)第8条の規定により、海上自衛隊呉史料館(仮称)整備等事業に係る事業者の選定に関する客観的な評価結果を次のとおり公表する。

平成17年4月22日

防衛庁長官 大野 功 統

海上自衛隊呉史料館(仮称)
整備等事業

事業者選定結果

1. 事業概要

(1) 事業名称

海上自衛隊呉史料館(仮称)整備等事業

(2) 公共施設等の立地等

- ・立地場所：広島県呉市宝町 5-32
- ・敷地面積：3,247.52 m²
- ・用途地域：商業地域
- ・建ぺい率：100%
- ・容積率：400%

(3) 事業目的

本事業は、海上自衛隊の有する資料の展示・保存等を通じて、海上自衛隊員の教育（主として新入隊員への動機付け等の基礎的教育）及び、広く国民一般等への広報活動により海上自衛隊の活動に対する理解の促進並びに地域との共生に貢献することを目的とするものである。

本事業は、隊員教育効果の向上と効果的な広報活動の実施を図るため、PFI 法に基づき、民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用し実施するものとする。特に、本事業では資料の展示・保存等の運営業務についても民間に委ねるものとし、その創意工夫を通じて事業効果が更に高められることを期待するものである。

(4) 事業内容

本事業は、PFI 法に基づき、事業を実施する主体として選定された民間事業者（以下「選定事業者」という。）が、史料館施設等を設計・建設した後、公共施設等の管理者等である国に所有権を移転し、事業期間中に係る運営・維持管理業務等を遂行する方式（Build-Transfer-Operate, BTO）により実施する。

なお、選定事業者は、国有地の有効活用の観点から、選定事業の用途又は目的を妨げない限度において、本事業計画地における利用可能容積（最大容積から国の必要容積を除いた容積）を活用し、選定事業以外の事業を行うことができる。（以下当該事業を「附帯的事业」という。）

(5) 事業期間

事業期間は、契約締結日から平成 26 年 3 月末までの期間である。

(6) 経緯

実施方針の公表	平成 16 年 8 月 11 日
特定事業の選定	平成 16 年 11 月 2 日
入札公告	平成 16 年 11 月 25 日
入札参加表明書・入札参加資格確認書類の受付	平成 16 年 12 月 13 日～15 日
入札参加資格確認通知	平成 16 年 12 月 24 日
入札提出書類の受付	平成 17 年 1 月 24 日～26 日
開札	平成 17 年 1 月 27 日
落札者の決定	平成 17 年 2 月 25 日

(7) 事業者の選定方法

本事業は、設計・建設段階から運営・維持管理段階の各業務を通じて、民間事業者
に効率的・効果的かつ安定的・継続的なサービスの提供を求めるものであり、民間事
業者の幅広い能力・ノウハウを総合的に評価して選定することが必要であることから、
民間事業者の選定に当たっては、サービス対価の額、並びに事業運営能力、設計・建
設・維持管理能力等その他の条件により選定（いわゆる総合評価一般競争入札：会計
法第 29 条の 6、予算決算及び会計令第 91 条第 2 項）を行った。

本事業を実施する民間事業者の選定にあたっては、二段階で審査を実施することと
し、第一次審査は入札参加資格確認、第二次審査は価格・提案内容審査を行った。

2. 入札参加グループ一覧

以下の2グループが本件入札に参加した。

日立製作所 グループ	代表企業	株式会社日立製作所
	構成員 A	株式会社アイ・エイチ・アイ マリンユナイテッド 鹿島建設株式会社 大之木建設株式会社 株式会社日立ビルシステム 株式会社丹青社 株式会社日立建設設計
	構成員 B	八洲電機株式会社 日立プラント建設株式会社 バブコック日立株式会社
	構成員 C	株式会社山下設計
大林組 グループ	代表企業	株式会社大林組
	構成員 A	五洋建設株式会社 三菱重工業株式会社 株式会社トータルメディア開発研究所 株式会社合人舎計画研究所
	構成員 C	株式会社塩見 中電技術コンサルタント株式会社 株式会社協和エクシオ

3. 落札者の決定

広島防衛施設局及び呉地方総監部は、民間事業者の選定に当たり、部外学識経験者・防衛本庁職員・防衛施設庁職員で構成する「海上自衛隊呉史料館（仮称）整備等事業に係る事業者選定審査委員会」（以下「審査委員会」という。）を連名で設置した。

審査委員会は、提案内容に基づき評価を行い各提案の評価点を決定した。広島防衛施設局及び呉地方総監部は、その評価点を入札価格で除した値（総合評価値）が最も高い提案を提出した者を落札者として決定した。

(1) 第一次審査（入札参加資格確認）

前記の2グループから入札参加表明書等が提出され、2グループともに入札説明書等に示した入札参加資格等の要件を満たしていることを確認した。

(2) 第二次審査（価格・提案内容審査）

1) 入札価格の確認

第一次審査を通過した2グループから提出された入札提出書類のうち入札書に記載された入札価格が、広島防衛施設局及び呉地方総監部の設定する予定価格の範囲内であることを確認した。

2) 提案内容審査

提案内容について基礎項目審査を行い、2グループともに落札者決定基準書に示す基礎項目を満たしていることを確認したうえで、各評価項目における加点項目審査を行って各提案の評価点を決定した。

3) 総合評価値

広島防衛施設局及び呉地方総監部は、基礎項目審査及び加点項目審査の評価点の合計を入札価格で除した総合評価値を算出し、総合評価値が最も高い提案を提出した登録受付番号01 日立製作所グループを落札者として決定した。

	登録受付番号01	登録受付番号02
評価点	82.70	78.75
入札価格（円）（税抜き）	2,886,791,800	2,998,127,852
総合評価値（評価点 / 入札価格）	2.864×10^{-08}	2.626×10^{-08}

落札者名：日立製作所グループ

落札金額：3,027,938,761 円（消費税及び地方消費税相当額を含む。）

予定価格：3,248,960,747 円（消費税及び地方消費税相当額を含む。）

V F M：14.9%

VFM (Value For Money) の評価にあたっては、「VFM (Value For Money) に関するガイドライン (平成 13 年 7 月 27 日)」に準じ、本事業を国が直接実施する場合の事業期間全体を通じた財政負担額の現在価値 (= PSC (Public Sector Comparator)) と PFI 事業として実施する場合の事業期間全体を通じた財政負担額の現在価値 (= PFI 事業のライフサイクルコスト) を比較している。上記の 14.9%とは、PSC に対する PSC と PFI 事業のライフサイクルコストの差分を示している。

なお、PSC と PFI 事業のライフサイクルコストを算定するにあたっては、国の国税収入等を加味することに加え、現在価値への換算を行っているため、PFI 事業のライフサイクルコストは予定価格や落札金額とは一致しない。

4 . 落札者の提案概要

落札者である日立製作所グループの提案は、敷地西側に鉄骨造 3 階建て約 3,400 m² の史料館施設、敷地東側に展示用潜水艦を配置し、史料館施設の 2 階に掃海艇に関する資料、3 階に潜水艦に関する資料を展示する計画である。

また、附帯的事業としては、史料館施設 1 階にミュージアムショップが提案されている。

【海上自衛隊呉史料館（仮称）イメージ図】



* 本図は参考資料として提出されたものであり、実際の建築とは異なる場合がある。

海上自衛隊呉史料館(仮称) 整備等事業

審査講評

海上自衛隊呉史料館（仮称）整備等事業
に係る事業者選定審査委員会

1 . 提案内容審査の概要

(1) 基礎項目審査

基礎項目審査は、入札参加者が提出した提案書の内容が、落札者決定基準書に示す基礎項目を満たしているか確認し、基礎項目を全て満たした提案については 40 点を付与、1 項目でも満たしていない場合は失格とする。

なお、「附帯的事業」については、入札参加者から附帯的事業が提案された場合にのみ、基礎項目審査を行うものであり、附帯的事業を提案しなかったことにより失格になるものではない。

(2) 加点項目審査

加点項目審査は、落札者決定基準書に示す「事業計画」、「施設整備計画」、「運営・維持管理計画」の各評価項目に対して優れた提案が行われている場合に、落札者決定基準書に基づいて加点を付与する。また、加点の満点は 60 点とする。

(3) 評価点の決定

基礎項目審査の点数と加点項目審査の点数との合計点を評価点として決定する。

2. 審査委員会の開催経緯

審査委員会は以下のとおり開催した。

開催日	委員会	主な議事内容
平成16年12月1日	第1回事業者選定審査委員会	落札者決定基準書
平成17年2月17日	第2回事業者選定審査委員会	基礎項目審査 加点項目審査
平成17年2月21日	第3回事業者選定審査委員会	加点項目審査

審査委員会の委員は以下のとおりである。

海上自衛隊呉史料館（仮称）整備等事業に係る事業者選定審査委員会委員

委員名	所属等
西野 文雄（委員長）	政策研究大学院大学 教授
大堀 哲	常磐大学 学長
小幡 純子	上智大学大学院法学研究科 教授
田中 英隆	株式会社 格付投資情報センター 本部長
野城 智也	東京大学生産技術研究所 教授
防衛庁 長官官房 施設課長	
防衛庁 人事教育局 教育課長	
防衛庁 海上幕僚監部 人事教育部 教育課長	
防衛施設庁 建設部 建設企画課長	

3 . 総評

本事業には 2 グループからの提案があり、いずれの提案も代表企業及び構成員の有する民間の創意工夫及び技術的能力が十分に発揮された質の高い提案であった。

登録受付け番号 01 については、展示スペースに無柱空間を創出し、独立した管理専用動線を設定することにより、運営・維持管理し易い諸室構成とした施設計画が高く評価されたほか、展示品のストーリー性を重視した展示構成や施設利用者の基本動線と選択動線を両立させた強制力の弱い動線計画等の展示構成（史料館）、対象層を定めた企画展やイベント等の開催等の運営に関する提案が高く評価された。

登録受付番号 02 については、展示用潜水艦下を屋外展示スペースとする外構計画等の展示用潜水艦を最大限に活かした施設配置計画が高く評価されたほか、展示用潜水艦を熟知した技術者による展示用潜水艦の改造、展示用潜水艦内での潜航、浮上及び戦闘訓練等の音響・照明演出を導入した臨場感を高める展示構成（展示用潜水艦）が高く評価された。

審査委員会は、提案内容について基礎項目審査を行い、2 グループともに落札者決定基準書に示す基礎項目を満たしていることを確認したうえで、各評価項目における加点項目審査を行って各提案の評価点を表 1 に示すとおり決定した。

表 1 基礎項目審査及び加点項目審査結果

大項目	中項目	配点	登録受付番号 0 1	登録受付番号 0 2	
加点項目	事業計画	基本方針	2	1.50	1.00
		実施体制	3	2.25	2.75
		国との連携	2	2.00	1.00
		事業の安定性・継続性	3	2.00	2.50
			10	7.75	7.25
	施設整備計画	全体スケジュール	2	1.00	1.00
		施設配置計画	5	4.00	5.00
		施設計画	3	3.00	0.50
		設計（外観・内観）	3	1.50	1.50
		設計（その他）	2	1.00	1.00
		施工計画	3	2.70	1.50
		展示用潜水艦の改造	4	2.00	3.50
		展示用潜水艦の移動・設置	3	2.25	1.50
		25	17.45	15.50	
	運営・維持管理計画	運営計画	4	2.00	2.00
		展示構成（史料館）	4	2.50	2.00
		展示構成（展示用潜水艦）	4	3.00	4.00
		運営業務	4	3.00	2.00
		安全性・セキュリティ	3	2.00	2.00
		その他運営に関する提案	3	3.00	1.50
		維持管理計画	3	2.00	2.50
		25	17.50	16.00	
		小計	60	42.70	38.75
		基礎項目	40	40.00	40.00
		合計	100	82.70	78.75

4 . 個別講評

(1) 登録受付番号 01

【事業計画】

評価項目	講 評
基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の目的及び基本コンセプトを踏まえ、独自の基本方針を打ち出すとともに、海上自衛隊員の教育について適切な基本方針を定めている点が特に優れている。 ・ 施設利用者数の低減防止策に加え、モニタリングと関連付けたサービス水準の低下防止策に係る適切な取組方針が特に優れている。
実施体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運営・維持管理期間においても各種業務のバックアップ体制を確保する業務実施体制・役割分担体制が特に優れている。 ・ 代表企業及び構成員が豊富な PFI 等の実績を有している点が特に優れている。 ・ プロジェクトマネージャー (PM) の設置、連絡会議等の開催等によるグループ内の連携・連絡体制が優れている。 ・ セキュリティレベルの明確化、レベルに応じた対策等の情報管理、守秘義務に関する具体的な対策が優れている。
国との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業終了後の国への引継ぎについても十分な配慮がなされたうえで、国とのコミュニケーションを図るために、事業段階毎の協議会を設置する点が特に優れている。 ・ 自衛官職員と史料館職員の役割分担及び連携方法が十分に検討され、企画展等に関する民間ノウハウの国への移転や自衛官職員業務の支援等、国の運營業務に対する SPC の積極的な貢献が特に優れている。
事業の安定性・継続性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資金調達計画に調達方法や条件が適切に設定されており、金融機関から融資確約書等も添付されている点が特に優れている。 ・ 収支計画や経営指標が合理的かつ適切であり、配当を内部留保することで現預金を豊富に確保する措置が優れている。 ・ リスクのパススルーやバックアップ体制の整備、任意保険加入などのリスク対処策を講じている点が優れている。

【施設整備計画】

評価項目	講評
全体スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトマネージャー（PM）を設置し、各業務の工程を一元管理する体制が優れている。 十分な設計期間を設定することにより、国との十分な協議期間を確保する設計スケジュールが優れている。
施設配置計画	<ul style="list-style-type: none"> 展示用潜水艦がランドマークとして存在感を有するとともに、展示用潜水艦下を通して史料館へアクセスできる配置計画が優れている。 交流広場を設け、多目的室との一体利用やセミナー開催時のエントランスとして利用する外構計画が優れている。
施設計画	<ul style="list-style-type: none"> 展示構成のリニューアル等に対するフレキシビリティを確保しつつ、各フロアにバックスペースを配置し、運営・維持管理し易い諸室構成が特に優れている。 健常者、身障者、高齢者が同じ観覧ルートとなるように、上下移動の少ない観覧動線を設定するとともに、専用エレベーターを設け、独立した管理専用動線を設定した動線計画が特に優れている。 鉄骨造を採用することにより、展示スペースに広い無柱空間を創出している構造計画が特に優れている。
設計（外観・内観）	<ul style="list-style-type: none"> ランドマークとなる展示用潜水艦を際立たせる外観デザインが優れている。 耐久性に優れ、維持管理し易い内装材を選定するとともに、可動間仕切等を採用しフレキシビリティに配慮する内装・仕上げが優れている。
設計（その他）	<ul style="list-style-type: none"> 全ての来場者に対し、同一の観覧動線が確保されており、さらに、身障者等の動作を具体的に検証、ヒアリングし、施設に反映させる設計としている点が特に優れている。
施工計画	<ul style="list-style-type: none"> 設計段階から、品質及び各種リスクを管理する効率的な実施体制を確保するとともに、工期短縮や省資源に配慮した適切な工法を採用している点が特に優れている。 建設工事に起因する展示用潜水艦の損傷リスクを低減する施工方法が優れている。 着工前から工事期間中に至るまで近隣住民等に配慮している点が特に優れている。 近隣住民や隣接施設の利用者に配慮した騒音、振動等の軽減方策が特に優れている。

<p>展示用潜水艦の改造</p>	<ul style="list-style-type: none"> 潜水艦改造企業内にプロジェクトチームを編成し、業務を円滑に進める体制を整える点が優れている。 計画段階で安全性のシミュレーションを行うことや、竣工後も随時モニタリングにより安全性を評価するなどの一貫した安全への取り組み体制や、高齢者・身障者に配慮した迂回路の設置等の利用者の安全を確保する対策を講じる点が特に優れている。 建築基準法上の適切な検討事項及び対応方法が提案されている点が優れている。
<p>展示用潜水艦の移動・設置</p>	<ul style="list-style-type: none"> 展示用潜水艦の海上輸送距離及び陸上輸送距離を短くすることによりリスクを低減する点が特に優れている。 展示用潜水艦の移動・設置に係る具体的なリスクを抽出し、適切な対応策を検討している点が優れている。

【運営・維持管理計画】

<p>評価項目</p>	<p>講評</p>
<p>運営計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> 運営時間の延長等のフレキシブルな運営を心がけるとともに、集客性に配慮した企画展等を多数提案している全体計画が優れている。 運営協議会を設置するとともに、職能別グループ化による運営と維持管理の役割分担を明確にしている実施体制が優れている。
<p>展示構成(史料館)</p>	<ul style="list-style-type: none"> サブテーマを独自に設定することにより、展示テーマと構成がより明確になっている点が優れている。 展示品のストーリー性を重視した展示構成や、施設利用者の基本動線と選択動線を両立させた強制力の弱い動線計画が特に優れている。 展示にハンズ・オン(触れて覚える)手法を積極的に取り入れて展示効果を高めている展示手法が優れている。 紛失、損傷、盗難防止、秘密保持等の資料の移動に関する配慮・工夫等が優れている。
<p>展示構成(展示用潜水艦)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルデザインの視点に立ち、潜水艦内部における施設利用者の安全性確保を第一としたうえで、公開区画以外の区画を閲覧可能とする等の展示手法を駆使している展示計画が特に優れている。 館内交話装置体験やマイク使用体験等のリアルな体験計画が優れている。
<p>運営業務</p>	<ul style="list-style-type: none"> 接遇マニュアル及びスタッフ教育の充実により、接客サービス水準及びスタッフのスキル向上させるシステムが特に優れている。 外部モニタリングシステムによる適切な業務改善方法と仕組みが優れている。

<p>安全性・セキュリティ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 設計段階からユニバーサルデザインに配慮するとともに、施設利用者動線のシミュレーションによる危険箇所の予測及びその対策を提案する等の施設利用者の安全性確保に関する配慮・創意工夫が優れている。 ・ セキュリティレベルに応じた適切な対応を検討するとともに、夜間に隣接するグループ構成企業を活用した人的対応を行うセキュリティ面に関する対策が特に優れている。
<p>その他運営に関する提案</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小中学生、ファミリー層等のターゲットを定めた企画展やイベント等を積極的に実施し、集客や海上自衛隊への理解促進を図る創意工夫等が特に優れている。 ・ 地域との連携を重視したサポート組織の結成等の運営に関する創意工夫が特に優れている。
<p>維持管理計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 設計段階から事業引継ぎ時までファシリティマネジメントの導入を図る維持管理計画が特に優れている。 ・ ベンチマークを設定し、定点観測や劣化診断からデータベースを構築することにより予防保全を図る点が優れている。

(2) 登録受付番号 02

【事業計画】

評価項目	講評
基本方針	<ul style="list-style-type: none">・ 事業の目的及び基本コンセプトを踏まえ、独自の基本方針を打ち出している点が優れている。・ 施設利用者数の低減防止策に係る適切な取組方針が優れている。・ 根拠資料に基づいた施設利用者数の目標値を設定している点が優れている。
実施体制	<ul style="list-style-type: none">・ 潜水艦の維持管理業務に係る潜水艦改造企業の役割、秘密保全の体制を確保する業務実施体制・役割分担体制が特に優れている・ 代表企業及び構成員が豊富な PFI 等の実績を有している点が特に優れている。・ 事業マネジメントチームの設置、連絡会議等の開催等によるグループ内の連携・連絡体制が優れている。・ 潜水艦を取扱っている造船所において潜水艦改造業務を行うことにより十分な秘密保全体制を確保する情報管理・守秘義務に関する具体的な対策が特に優れている。
国との連携	<ul style="list-style-type: none">・ 国とのコミュニケーションを図るために、事業段階毎の会議（及び部会）を設置する点が優れている。・ 自衛官職員と史料館職員の役割分担及び連携方法が十分に検討されている点が優れている。
事業の安定性・継続性	<ul style="list-style-type: none">・ 資金調達計画に調達方法や条件が適切に設定されており、金融機関から融資確約書等も添付されている点が特に優れている。・ 収支計画や経営指標が合理的かつ適切であり、配当を内部留保することで現預金を豊富に確保する措置が優れている。・ リスクのパススルーやバックアップ体制の整備、任意保険加入（特に展示用潜水艦の整備に関するリスクに対して）などのリスク対処策を講じている点が特に優れている。

【施設整備計画】

評価項目	講評
全体スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> 潜水艦改造業務のために、潜水艦の建造等を取扱っている造船所のドックを既に確保している点が特に優れている。
施設配置計画	<ul style="list-style-type: none"> 展示用潜水艦がランドマークとして存在感を有するとともに、展示用潜水艦下を通して史料館へアクセスできる配置計画が優れている。 展示用潜水艦下を屋外展示スペースとして計画するなど、外構を有効に活用する外構計画が特に優れている。
施設計画	<ul style="list-style-type: none"> 史料館施設と展示用潜水艦の間に、観覧動線を内包したアトリウム空間に設置することより、両施設の関係性を向上させ、さらに、屋外展望デッキから展示用潜水艦等を眺望できる施設計画が優れている。
設計(外観・内観)	<ul style="list-style-type: none"> ランドマークとなる展示用潜水艦を際立たせる外観デザインが優れている。 耐久性に優れ、維持管理し易い内装材を選定するとともに、タイルカーペットや塗装壁を採用しフレキシビリティに配慮する内装・仕上げが優れている。
設計(その他)	<ul style="list-style-type: none"> 車椅子にも対応可能なエスカレーターを設置し、高齢者等に配慮する設計としている点が優れている。 新たな省エネ技術を採用するとともに、屋上緑化等により環境負荷低減を図る配慮・工夫等が優れている。
施工計画	<ul style="list-style-type: none"> 工期短縮や省資源に配慮した適切な工法を採用している点が優れている。 建設工事に起因する展示用潜水艦の損傷リスクを低減する施工方法が優れている。 隣接施設への騒音、振動等の軽減方策が優れている。
展示用潜水艦の改造	<ul style="list-style-type: none"> 展示用潜水艦を長期展示するための耐久性に配慮している点、海外類似施設の視察実績を展示計画に反映させる点が特に優れている。 展示用潜水艦を熟知している技術者が改造に当たるため、品質の確保が期待できる点が特に優れている。 潜水艦内の同時滞在者数を制限すること等の両者の安全を確保する対策を講じる点が特に優れている。 建築基準法上の適切な検討事項及び対応方法が提案されている点が優れている。
展示用潜水艦の移動・設置	<ul style="list-style-type: none"> 展示用潜水艦の移動・設置に係る具体的なリスクを抽出し、適切な対応策を検討している点が優れている。

【運営・維持管理計画】

評価項目	講評
運営計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運営時間の延長等のフレキシブルな運営を心がけるとともに、集客性に配慮した企画展等を多数提案している全体計画が優れている。 ・ 類似施設運営経験者、学芸員経験者の採用について検討し、その専門性を重視した実施体制が優れている。
展示構成(史料館)	<ul style="list-style-type: none"> ・ サブテーマを独自に設定することにより、展示テーマと構成がより明確になっている点が優れている。 ・ 展示用潜水艦を立体的に観覧できる動線計画が優れている。 ・ 潜水艦の疑似体験や、潜望鏡の模擬体験を駆使し、展示の効果を高めている展示手法が優れている。 ・ 資料の特性に応じた効率的な移動等の資料の移動に関する配慮・工夫等が優れている。
展示構成(展示用潜水艦)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 史料館施設内で十分なオリエンテーションを受けてから潜水艦内部を体験する計画とするとともに、公開区画以外の区画を閲覧可能とする等の展示手法を駆使している展示計画が特に優れている。 ・ 潜航、浮上及び戦闘訓練等の音響・照明演出を導入して、潜水艦に乗り込んだような臨場感を高める体験計画が特に優れている。
運営業務	<ul style="list-style-type: none"> ・ 常設展示とその更新内容、イベント、企画点等の情報を一元管理し、ホームページや館内情報端末等で提供するシステムが優れている。 ・ 多段階セルフモニタリングシステムによる適切な業務改善方法と仕組みが優れている。
安全性・セキュリティ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 想定される事態毎に人的対応と設備・機械・システムの対応に分類し、それぞれに対する安全対策を提案する等の施設利用者の安全性確保に関する配慮・創意工夫が優れている。 ・ フラッシュライト等により展示用潜水艦を警備するセキュリティ面に関する対策が優れている。
その他運営に関する提案	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企画展やイベント等を実施し、集客や海上自衛隊への理解促進を図る創意工夫等が優れている。
維持管理計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的な維持管理業務やその作業内容、頻度等を詳細に設定した維持管理計画が特に優れている。 ・ 再調達が容易な汎用性の高い部材・製品を採用する等により、維持管理に係るコストの低減を図る点が優れている。 ・ 展示用潜水艦の錆打ちや塗料にフッ素樹脂系塗料を使用することにより、ライフサイクルコストの低減を図る展示用潜水艦の維持管理計画が特に優れている。